

## Ⅱ 実践の記録

### 教育実習に関する、実習生の自己評価と 実習校における成績評価の関係について

— その (1) —

古屋野 素材

#### 1. はじめに

本稿は、『教職・社会教育主事課程年報第8号』（昭和61年3月）所収の、「教育実習成績評価表の集計と分析—実習校における明大生に対する評価の傾向と問題点—」と関連するもので、大学教育の一環としての開放制教師教育における、教育実習の位置付けの検討をめざすものである。

今回は、昭和62年度教育実習の事後指導（昭和62.6～7月の筆者が担当したクラス）の際に実習終了者に記入を求めた、「実習に関する自己評価」と実習校における指導教員の評価をつき合わせる作業から、実習生の自己評価の傾向と、実習生と実習校側の意識のズレなどを把握することにより、今後の教職専門科目や教科専門科目の指導および事前指導の充実・改善の方向性を見いだしてゆくことを目的とした。

本号では、紙幅の関係から、今回の調査・検討の概要と、得られた結果の一般的な傾向、及びデータのサンプルの一部分、を呈示し、次号で、実習校側の自分に対する評価への学生側の感想等をクロスした詳しいデータを示すこととする。

上記の「自己評価表」は、実習校に記入を依頼する「明治大学教育実習成績評価表」と同じ8つの評価項目について、5段階表示によるスコアと、それぞれの項目に設けた「反省すること・心がけたこと」という欄へのコメント、を記入する形にしたが、各評価項目については、自己評価を行う場合の手がかりとして、「評価のポイント」という評価の際の観点を説明的に加えておいた。これは、実習校側に依頼する評価表には（実習校それぞれの独自の評価視点が反映することを期待して）このような“観点”をつけてはいないものの、実習生の場合には何か評価の手がかりがないと記入が難しいだろうと判断したことによる。

なお、「評価のポイント」は、上記の『年報8号』の成績評価表の検討の際浮かび上がってきた、それぞれの項目で各実習校において共通している評価視点を下敷きにしたものである。

以下、自己評価表の「評価のポイント」、評価スコアの一般的傾向、自己評価と実習校側の成績評価の対比の実例、を示す。

## 2. 「評価事項」および「評価のポイント」

＜評価事項＞	＜評価のポイント＞	＜事前指導における注意のポイント＞
1) 参観態度	目標の設定・記録 事後の質問 自分の授業への応用	板書や発問、生徒の学習活動状況の把握、などに注目すること。参観記録から教師の指導案を復元する試みなど。
2) 協力態度	学校行事への協力 指導教師への協力 同僚実習生への協力	引込み思案にならず積極的な姿勢で。相手の立場にたつての、自分に期待されている役割の、機敏な判断の訓練。
3) 基礎学力	板書文字（筆順など） 日頃の読書量の反映 教科・教材に関する知識量	日頃愛用の辞書や事典類を移動先にも。実習校や地元の図書館や書店の資料整備状況を早めに把握しておくこと。
4) 教材準備	丹念な下調べ・資料作成 教師の助言の受容 生徒の理解度への配慮	既習事項や読解につまづく生徒がでそうな表現・熟語等も徹底的にチェック。図表や資料等の活用を事前に万全準備。
5) 指導技術	板書・話し方・声量 生徒の反応の理解 机間指導・機器の活用	指導案の内容はなるべく頭に入れておき、できるだけ教室全体に目を向ける。板書内容は事前に黒板で練習。
6) 事務処理	採点・集金等の処理 生徒への事務連絡 その他の雑事	指示された業務内容の十分な確認・理解。事務処理後の整理・報告の徹底。生徒と親しく交流する機会としても。
7) 教師としての資質	生徒に対する愛情 生徒からの信頼 責任感・指導力	服装・姿勢・挨拶・言葉づかい、等の言動にかんする節度と一貫性はきまじめに。明朗な若者らしさは遠慮せずに。
8) 実習録	内容のある丁寧な記述 決められた時間内の提出 教師の助言の吟味	テーマをもって観察したことを整理・考察して。次の段階への課題を見出す意識で。驚きや感動や困惑は率直に。

\* ＜事前指導における注意のポイント＞は、昭和62年4月～5月の筆者が担当した「事前指導クラス」で、実習成績評価表の項目を紹介する際に、実習生として期間中留意すべき努力目標の目安になればと示したものであり、「事後指導」における「自己評価表」ではこの部分が自己評価スコアや「反省すること・心がけたこと」の記入欄になっている。

## 3. 評価スコアの一般的傾向

今回、筆者の担当した「事後指導」に出席して、「自己評価表」に記入した実習終了者は、男子学生が146名、女子学生が62名、計208名で、所属学部は本学の全学部にまたがっており、実習校も、地方出身校もあれば、大学で紹介した都内公立中高校および明大付属中高校もあって、バラエティーに富んでいる。

その彼等の、自己評価における各項目のスコアの分布情況を示すのが、表1である。標本数としての208名は、今年度の本学の教育実習生全体のほぼ25%にあたる。

表2は、実習校側の成績評価値を、昭和57年度から昭和61年度までの5年間の計4,269名の実習生全員について集計して作成したものである。(この成績評価の集計については、前述の『年報第8号』の拙稿を参照されたい。なお今回の208名を含む昭和62年度の全実習生についてのスコアの集計はまだできていない。)

表1 実習生の自己評価におけるスコア分布

評価事項	5	4	3	2	1
参観態度	32	52	15	(3)	(0)
協力態度	66	32	2	(1)	(0)
基礎学力	10	40	40	10	(0)
教材準備	30	46	23	1	(0)
指導技術	17	56	25	2	(0)
事務処理	40	54	6	(1)	(0)
教師資質	48	40	12	(1)	(0)
実習録	27	48	20	5	(0)

表2 実習校側の成績評価のスコア分布

評価事項	5	4	3	2	1
参観態度	59.1	27.0	13.6	0.3	(0)
協力態度	64.1	29.8	5.7	0.4	(1)
基礎学力	35.9	51.3	12.2	0.6	(1)
教材準備	47.0	41.4	10.9	0.7	(3)
指導技術	18.5	61.3	19.3	0.8	(2)
事務処理	29.4	48.1	16.4	0.6	(2)
教師資質	53.6	37.8	7.8	0.7	(5)
実習録	44.0	43.1	12.4	0.5	(2)

表1, 2とも単位は%, ( )内は実数(その得点の学生数)。

詳しい分析は次回に譲ることとするが、この2つの表を比べてみると、第1位得点(その項目で該当者が一番多いスコア)の分布傾向はかなりよく似ているものの、基礎学力・教材準備・指導技術については、実習生の自己評価はかなり辛い傾向を示しているといえよう。これは、次に示す実習生の<反省すること・心がけたこと>の記入例にも明らかのように、現場で教師の仕事の実際に触れて、その手慣れた授業運営や生徒指導の技術と、自分達実習生のつけ焼刃の授業実践の格差の大きさをあらためて痛感することからくるものといえよう。

#### 4. 「自己評価表」記入例と実習校側の成績評価

次に2人の実習生について、「自己評価表」と実習校側の成績評価を対比して示す。

この2例は、筆者が期間中それぞれの実習校での訪問指導を担当した学生の内から、与えられた紙幅に合わせて選んだケースで、中学・高校、文系科目・理系科目、男子・女子、というおおまかな目安以外に特別な基準に拠らず、ほぼアトランダムに抜き出したものである。

(この2例を含む20余りのケースについては、実際に実習中の状況に接したり、実習校の指導担当教員と面談する機会を得たり、事後に学生本人と話し合うなどして、それぞれの自己評価や成績評価の背景を筆者がある程度把握しており、今回のやや詳しい分析・検討の核となるケースである。)

※以下、各事例とも;「自」は実習生の自己評価,「学」は実習校の成績評価,数値は評点。

A：中学校・理科 都区内公立 農学部・女子

- 1) 参観態度 自〔4〕授業参観のノートはわりあいよくとれていたと思うが、自分の授業への応用が十分でなかった（発問など）。

学〔4〕各教科の授業に関心をもち、積極的に参観できた。

- 2) 協力態度 自〔4〕大体できていたと思うが、生徒指導の方にばかりかまけて、教員間の作業への参加を怠ったことがあった。

学〔5〕生徒の理解に努め、クラス全体の指導に対して協力、班の会議等に積極的に加わっていた。

- 3) 基礎学力 自〔3〕字がきたない。専門教科の学力不足が非常に苦しかった。

学〔4〕第1分野は苦手ようだったが、よく勉強し、努力していた。

- 4) 教材準備 自〔3〕当初は大学の講義のような授業をして、何度も指導の先生に注意されたが、回を重ねるうちにその意味が理解できるようになった。

学〔5〕実験の準備等、大変な仕事だったが、各班の用意など、細かいところまで気を配り、熱心だった。

- 5) 指導技術 自〔3〕生徒はビジュアルな刺激によって授業に興味をもってくれることがわかったので、後で見直しても意味がわかるような板書、ゼスチャー入りの話し方、ビデオなどの利用を心がけた。

学〔4〕声も大きく、注意すべきことは注意し、堂々とした態度だった。

- 6) 事務処理 自〔4〕概ねできていたように思う。

学〔4〕きちんとした態度で、事務処理能力があった。

- 7) 教師資質 自〔4〕生徒を「こうしてゆこう」というエゴを反省し、「生徒と共に歩いて行きたい」という思いで生徒に接することの重要性を感じた。

学〔5〕何事にも熱心で、生徒のことを真剣に考え、思いやりのある点から、資質が十分にあると言える。

- 8) 実習録 自〔3〕悪いくせだが、文章を抽象的に書くところがあって、十分に理解してもらえたかどうか不安。教師の助言を素直に受け、かつその教師の色に染まらないようにしたかった。

学〔4〕自分で悩みながらも、どうしたら良い指導ができるか考えており、誠実さがあらわれていた。

B：高等学校・国語 地方公立校（出身校） 文学部・男子

- 1) 参観態度 自〔3〕諸先生の授業を見て、一つ一つポイントをみつけたが、それを自分の授業に十分生かせなかった。

学〔4〕よくメモをとりながら参観し、予習して参観に臨んだ。

- 2) 協力態度 自〔5〕二週とも、日曜日を潰して模擬試験などの行事に参加・門前指導や試験監督の仕事で、教師や同僚実習生への協力ができた。
- 学〔4〕クラス運営上の仕事や授業の準備、その他協力的であった。
- 3) 基礎学力 自〔2〕板書は読みにくいと指摘された。古典文法の知識力が曖昧。
- 学〔3〕国文学・国語学的学力はかなりもっている。
- 4) 教材準備 自〔4〕指導教師からの助言も活かすよう心がけたが、授業での生徒の反応を無視したものになりがちだった。
- 学〔5〕時には徹夜をしたほどであり、学校図書館もよく利用した。
- 5) 指導技術 自〔2〕板書のまとまりが悪く、字が汚かった。本ばかり見て生徒の顔をあまり見なかった。机間指導は二度ほど実行した。
- 学〔4〕研究授業を含め、熱心で他の教師の評価も高かった。
- 6) 事務処理 自〔4〕採点・集金はよくできたと思うが、事務連絡などもっと楽しい話題を入れながら工夫してやれば良かった。
- 学〔3〕生徒指導の仕事までも良く手伝ってくれた。
- 7) 教師資質 自〔3〕気になった生徒や話しかけてくる生徒に指導が傾き、他の生徒への積極的な関係作りができなかった。
- 学〔4〕沈着冷静さと情熱、生徒への愛着心など強い。
- 8) 実習録 自〔3〕他大学の実習生に較べると、内容が詳しく書けなかったが（記入欄が少ないため）、充実しているとは思っている。
- 学〔3〕毎日まじめに提出した。